

春の彼岸によせて

平成十二年三月 大乘寺 副住職 岡 光俊

皆さまは、ご先祖供養をどのように受け止めておられるのでしょうか。

人間であれば、弱者に手を差し出すことは当たり前です。人は心のどこかで、そのようなことができればいいなと、思っているものです、これを良心というのでしょうか。しかし、この良心も気ままなもので、人にいわれたり、強要されたり、タイミンを失うと、全く反対の行為として表現してしまうものです。これは、一人一人の心のありかたが違うからなのでしょう。心のありかたは人間の数だけある、といっても過言でないでしょうし、そのことは皆さまも日常生活で体験されておられることでしょう。

精神医学や心理学で、また、今や脳神経内科で、科学的に医学的に心のメカニズムを解明しようと努力されており、私たちもその恩恵を受けております。そして、医学的な説明が進めば進むほど、お釈迦さまの申されたことが間違いなかったことと、明らかになってきています。

では、お釈迦さまはどのように申されておられるのでしょうか。

「すべての心の悩みや苦しみは、自分自身の妄想からくる」と。これだけでは、お解りになりにくいでしょうが、この妄想は身近なところに一杯あります。

まず、自分が死ぬことは決まりきったことです。しかし、いつまでも生きられると思ひ込んでしまっていますので、なにかあれば慌ててしまいます。また、若いときは自分の地位名誉はどんな昇り、いつまでもあるように思っています。地位名誉を奪われるまでも、少し脅かされる要因があるだけでも不安を覚える。必ずなくなるものですが。そしてまた、夫婦、親子、友人、嫁姑、これほど身近な人間関係だから上手くやっていけて当たり前前と思っています。

いや思っていないよ、といわれるのであれば、そのかたは愚痴、不満は、一切ないことになります。しかし実際は、いうことを聞かないと腹を立てている。何故なら親子であろうが、夫婦であろうが、ご自身の力ではどうにもならないところに、鍵があることすら解っていない。このことを含め、「妄想」とおっしゃっているのです。これらは、何億というお釋迦さまの教えの一つに過ぎないのですが。

それにしても、何故人間はそのような心を持たせて頂いて、この世に生まれてくるのでしょうか。最初の、「人間であれば弱者に手を……」の弱者とは、色々なかたがおりますが、最も身近で関係が深く、貴方以外に誰も手を差し出すことができない弱者がおります。そのかたは肉体を失い、自分ではどうしようもない、ただ子孫の真心だけが頼みの綱となられた貴方の祖、先の祖であり親なのです。まずそのかたに手を差し出さずに、次の弱者に手を差し出せば、それは周りの目を意識した善意、偽善にほかならないでしょう。そして、すぐに自分も肉体を失う、ほんの少しのあいだしかなできない善意ですし、しておかなければならないことでしょう。

その善意の方法も、それぞれ自分の思いのままにすることが正しい、と思ひ込んでおられるかたが多いようです。しかしこれもまた、人間の勝手な妄想なのです。何故なら、勝手にしてよいのであれば、またそれで通じるのであれば、戒律も教えも経文も、存在していないはずですし、それを説き、後世に命がけで伝える僧は、現れなかったことでしょう。

ご先祖供養においても、多くの思ひ込みや妄想があるから進まず、悩み、問題もでてくるのです。最も弱いご自身のご先祖さまに手を差し出す姿が、ご先祖供養です、魂は生きておられるのですから、毎日、毎日のお世話が大切です。ご自身がご自身の手でしかできない、これをご先祖供養です。そしてその正しい方法をお伝えし、供養の仕方の解らないかたに変わってさせて頂く特別な者がおり、その者が供養の手伝いをする者であります。

慣習として、親から引き継がれていることが一般的でしょうが、一から考えを新たにして頂き、これを期に、最も弱者である自分のご先祖さまに勇気を持って手を差し出し、お釋迦さまの教えに沿った正しいご先祖供養を始めようではありませんか。

合掌